

南三陸金華山国定公園

金華山の四季・花マップ

春・夏・秋編

この「金華山の四季・花マップ」は、社会福祉法人宮城県共同募金会助成事業の助成を受けて作製されました。



野生植物研究所 高橋和吉

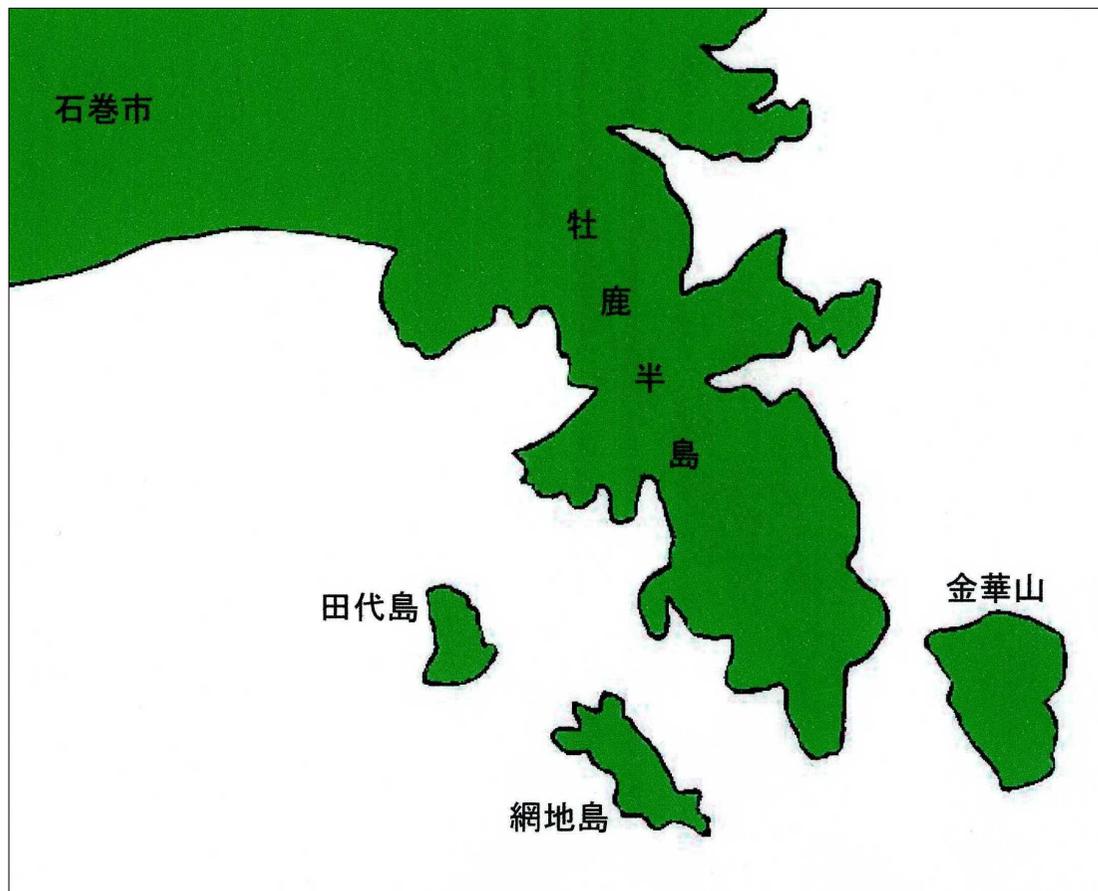


金華山の四季・花マップ

春・夏・秋編

金華山の位置

金華山(石巻市)は、宮城県東北部の牡鹿半島の南端から一キロメートル離れた海上に浮かぶ、面積約960ヘクタールの観光地としても有名な島です。



ウミネコ



港

金華山の四季・花マップ

春・夏・秋編

金華山の動植物

金華山は、かなり急峻な地形をもち、山頂は海拔445メートルもあります。この島には黄金山神社があって、古くから自然がよく保護されています。

島の海拔200メートル以上にはブナ林、200メートル以下にはモミ林が成立しています。野生のニホンジカやニホンザルも多く見られます。沿岸部にはアカマツやクロマツが植林され、みごとな林でしたが、近年松枯れでほぼ壊滅した所も多く見られます。



ニホンザル



ブナ林



モミ林

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編

金華山のニホンジカ植物

この島には、多数の野生のニホンジカが生息しています。そのニホンジカは林内の下生植物を食べるため、本来みられるいろいろな種類の植物が食べられてしまい、鹿の好まないレモンエゴマやハナヒリノキ、ハンゴンソウなどが繁茂し、また、食害され盆栽状になった樹木などが見られ、全国的にも珍しい景観を呈しています。

自然林の主要構成木であるモミやブナの稚苗もニホンジカに食べられ、現在樹木が枯れた後、再び森林に戻ることが難しいので、鹿と植物が好ましい状態で共存できるための自然管理の方策が取られています。



オオセンチコガネ



ニホンジカと下生植物



盆栽状になったサルトリイバラ



鹿の食害防止柵

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 春 1 ～



ミツバツチグリ【バラ科】各地の山地の林内に生える小型の多年草。高さ20～35cmの花茎の先に、淡黄色の5弁花を集散状につける。葉は有柄で3出る複葉。根茎は硬く肥厚し、かたまりとなり根生葉、花茎、匍匐枝を出す。



タチツボスミレ【スミレ科】山地林内から道端、人家周辺まで生育環境は広く、日本でもっとも普通に見られるスミレの一つ。花期には高さ10cmほどだが、花後30cmほどに伸びる。



ウラシマソウ【サトイモ科】山地の湿った木陰や竹藪などに生える多年草で雌雄異株。仏炎苞の中の肉穂花軸の上部は紫黒色の長いむちの様な形をして筒口から出て、一旦立ってから垂れて長い糸状になる。



ミミガタテンナンショウ【サトイモ科】山野、林野に生える多年草。仏炎苞の口の両側に耳たぶ形の附属物があることから耳形天南星の名がある。有毒植物の一つ。



ニオイタテツボスミレ【スミレ科】山地や丘陵地の林内、草地など、やや乾燥した場所に生える多年草。高さ10～25cmで全体に毛が多い。径1.5cmほどの濃紅紫色の花をつける。名は「花に芳香があるタチツボスミレ」を意味する。



サンショウ【ミカン科】雑木林などに生える落葉低木で雌雄異株。人家にも植栽される。よく分枝し、葉柄のつけ根の部分に対生する刺がある。葉をもみつぶすと強い芳香がある。山菜、薬草の一つ。



金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 春 2 ～



キンカアザミ【キク科】

名前のように金華山に産するアザミとしてその名がついている。他のアザミと比べ葉の刺が太く、硬く、鋭い。それでも鹿に食べられ花が咲かないなどの鹿による食害が進んでいる。



ヤマウグイスカグラ【スイカズラ科】

山地に生える落葉低木。花は4～6月。葉腋から出た長さ1～2cmの枝先に1、稀に2個の紅色の花をつける。方言でヤマグミと言っている。



カヤ【イチイ科】山地に生える常緑の高木で高さ20m以上になる。金華山では高木は見られるが低木は鹿の影響でほとんど見られない。あっても鹿に新芽を食べられ盆栽状になっている。(上記写真)



メギ【メギ科】山地のやや湿ったところに生える落葉性の低木。幹は直立し多数分枝して叢生する。枝は褐色で節には鋭い刺がある。内部は黄色で苦味が強い。薬用植物の一つ。刺が鋭いものの鹿に食べられ盆栽状のものが多い。



クリンソウ【サクラソウ科】山間の湿地に生える多年草。県内では稀に見られる。金華山では水が流れている沢筋に見られる。5～6月、長い花茎を出し紅紫色の柄のある花を花軸に輪生し数層をつくる。日本産のサクラソウの中で一番大きい。観賞用として栽培される。



フデリンドウ【リンドウ科】日当たりの良い山地の林内や草地に生える二年草。茎は直立し、高さ5～10cmになる。葉は蜜に対生し、柄がなく広卵形で、葉裏は赤紫色を帯びる。春、地面が枯れ葉や枯れ草に覆われているうちから、茎頂に青紫色の花を数個つける。根生葉は小さく、ロゼット状にならないので、他のリンドウとの識別は容易。蕾の形(花の閉じた形)を筆の穂先に見立てて名がつけられた。

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 春 3 ～



オオシマザクラ【バラ科】

宮城県では金華山や網地島などの島及び沿岸沿いに見られる落葉高木。10mほどになる。花は葉が出るより先に出る。花の直径は4cmほどで、色はほぼ白い。



キランソウ【シソ科】路傍や林縁に生える多年草。全体に毛が多く、茎、葉は地面を這って広がる。葉が地面にふたをしたようにへばりつくことからジゴクノカマノフタ（地獄の釜の蓋）とも呼ばれる。また、春の彼岸の地獄の釜が開く頃に花が咲くからと言う説もある。花は長さ1cmほどの唇形で濃紫色。



ムラサキサギゴケ【ゴマノハグサ科】

田の畔など、湿気のあるところに生える多年草。春、根ぎわの葉の間から花茎を伸ばして花をつける。花冠は紅紫色。葉は根ぎわに出て、その間から匍匐茎を伸ばし繁殖する。



セイヨウタンポポ【キク科】ヨーロッパ原産で世界中に帰化している多年草。セイヨウタンポポは、年間を通して花が見られる。



ニリンソウ【キンポウゲ科】山地の林縁や林内に生える多年草。群生することが多い。茎葉の間から長い花茎を伸ばし、白い花を次々と咲かせる。名は、一本の茎に通常2輪の花が咲くことに由来するが実際には1～4輪の花をつける。若芽は食用となるが、葉が猛毒のトリカブトとよく似ており、中毒の事例も多い。



センボンヤリ【キク科】山地のやや開けた林縁部や乾燥地気味の斜面などに生える多年草。葉はロゼット状になる。春型と秋型があり、異なった花をつけるという変わった植物。春の花茎は短めで、花茎の先に1つずつ頭花がつく。秋の花茎は高さ20～50cmになり、筒状花だけで花弁がなく、開かずにつけ結実する閉鎖花。

金華山

金華山

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 春 4 ～



ヒトリシズカ【センリョウ科】

山地林内に生える多年草。茎の先に4枚の葉が相接して対生していて、一見輪生のように見える。春その先端に直立した白色の長さ約3cmばかりの穂状花序を1個出す。ヒトリシズカの名は花穂が1本のことによる。

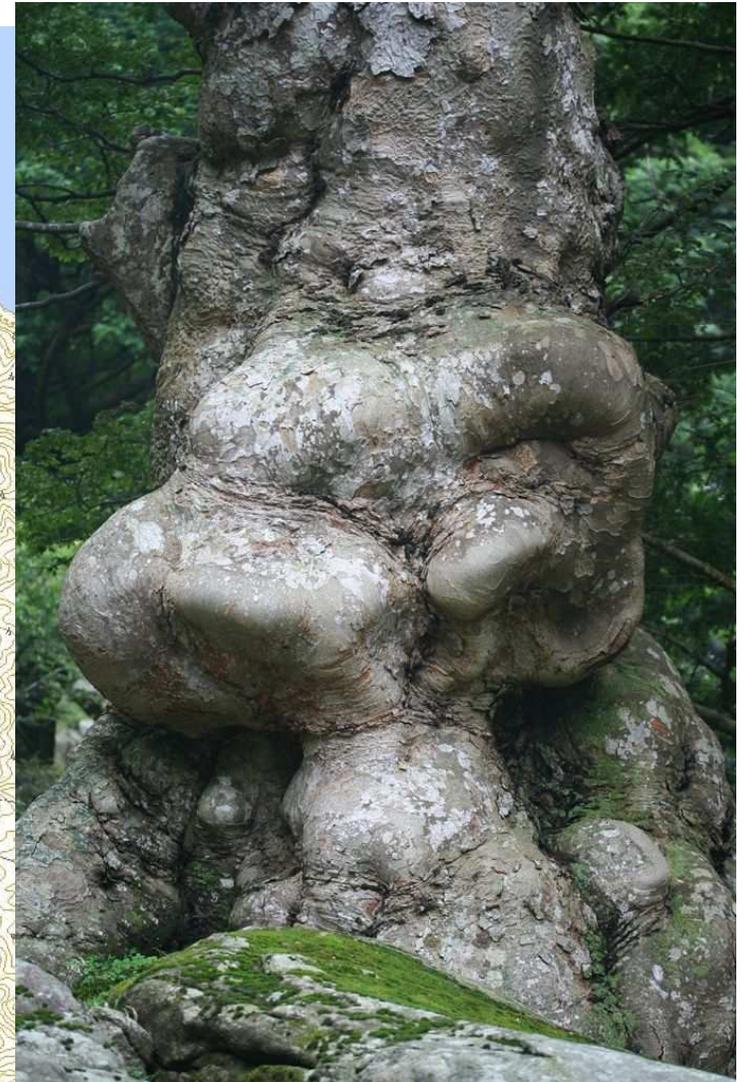
金華山



フチゲオオバキシミレ【スミレ科】山地の林道沿いなどに生える多年草。北海道南部から青森県岩手県など北日本の太平洋側に分布する。オオバキシミレの一変種で、葉のふちや裏面の脈状に毛が生えるのが特徴。花卉の裏側及び蕾は紅紫色を帯びる。オオバキシミレのように群生することはない。



カタクリ【ユリ科】山中に生える多年草。落葉広葉樹林の腐植質の多い林床に大群落を作ること多い。春に20cmほどの茎を出し、紫色の花を下向きに1個つける。茎の下部に1対の葉がある。葉は淡緑色に紫色の斑紋をもつ。



ケヤキの大木

黄金山神社から金華山頂上(445m)に向かう山道沿いには数種類の巨大な樹木が見られる。このケヤキの大木もその一つ。ケヤキのほかにモミヤブナなどの大樹と出会うのも金華山での楽しみの一つ。場所によってはイヌシデやアカシデ、モミなどの大樹と出会うかも・・・。

金華山の四季・花マップ

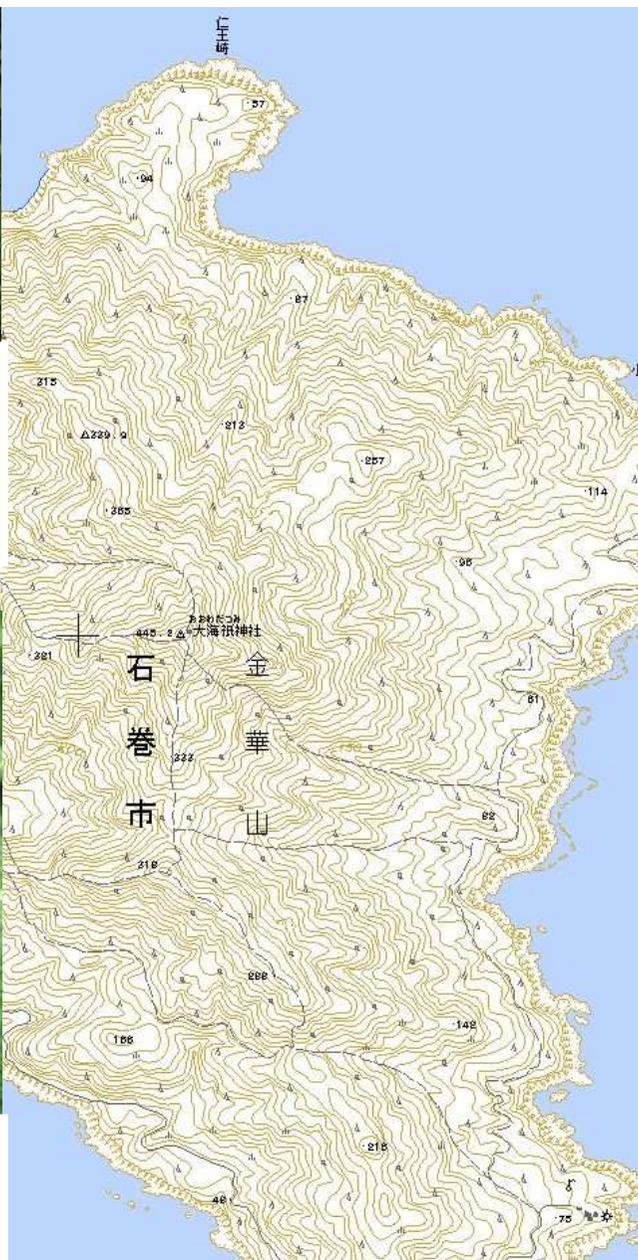
春・夏・秋編 ～ 夏 1 ～



ナミキソウ【シソ科】 海岸の砂地に生える多年草。地下茎を伸ばし繁殖する。茎は四角形。夏から秋にかけて、茎の上部の葉のわきに、短い柄のある紫色の唇形花を1個ずつ対生し、花は一方に向けて開く。



ハマヒルガオ【ヒルガオ科】
海岸の砂浜などに生えるつる性の多年草。葉は丸く厚みがある。花の色は淡い紅色でヒルガオに比べて濃い。普通ハマヒルガオは条件が良いと大群落を作るが、金華山ではほとんど見られない。



テリハノイバラ【バラ科】
海岸地方の砂地に生える落葉低木。つる性で巻きつくものがないと地面を這う。花はノイバラより大きく、葉に光沢がある。



イヌカミツレ【キク科】
ヨーロッパ原産の越年生帰化植物。葉は2～3回深裂してからさらに糸状に細裂する。高さは1mほど。頭状花は直径4cmほどで白色の舌状花と黄色の筒状花からなる。



イヌカミツレ【キク科】 金華山では鹿の角きり場及びその周辺で大群落を見ることが出来る。花盛りには、白い花が目立ち、遠くからでも分かる。



エゴノキ【エゴノキ科】
山地や原野などに生える落葉の小高木。5～6月、小枝の先端に総状花序を出し1～6個の白花が垂れ下がって開く。方言で「ずさのき」と言い、果実を「ずさのみ」と言う。

金華山の四季・花マップ

春・夏・秋編 ～ 夏 2 ～



ガマズミ【スイカズラ科】

日当たりの良い山野に生える高さ2～4mになる落葉低木。枝先に花茎を出し、散房状に白色で柄のある5弁花を多数つける。果実「液果」は卵形で、秋に鮮紅色に熟し、熟果は甘酸っぱい。



スイカズラ【スイカズラ科】

つる性の低木。花ははじめ白色で、後に黄色と変化する。白と黄色の花が混在する様子から「金銀花」とも呼ばれる。民間薬の一つ。



ミヤコグサ【マメ科】各地の道端や野原に生える多年草。4～10月に葉腋から花柄を出し、少数の鮮黄色蝶形花がつく。葉は互生、有柄の3出複葉。茎は緑色で細く、直立あるいは分枝し、地上を這う。



コゴメウツギ【バラ科】山野に生える落葉低木。新枝の先に総状花序を出し、花茎約4mmの白色5弁花を房状につける。葉は互生。卵形で粗っぽい鋸歯があり、先端は細く尖る。枝は円柱形でよく分枝する。…鹿の食害で盆栽状・・・



サルトリイバラ【ユリ科】日当たりの良い原野、丘陵などに生える蔓性の低木。雌雄異株。高さ2mほどになり、茎は節毎に曲り硬く、まばらに刺があり、分枝する。葉は互生し円形～広楕円形。葉柄の基部にある2個の托葉の先端が伸びて巻きひげとなり、ほかのものに絡みつく。新枝の葉腋から散形花序を出し、淡緑色の小さな6弁花を多数つける。果実は球形で紅熟する。薬草の一つ。…鹿の食害で盆栽状・・・



サンショウ【ミカン科】雑木林（二次林）中に広く生える落葉低木。人家にも植栽される。葉柄の基部に一对ずつの刺がある。雌雄異株。若葉は食用に、果実は薬用や香辛料となる。・・・コゴメウツギ、サルトリイバラ同様に鹿の食害で盆栽状・・・

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 夏 3 ～



ハマボツス【サクラソウ科】
海岸の岩場や草地などに生える2年草。茎は根本から数本の枝に別れ、高さ10～40cm位になる。茎に赤味をおびるものも多い。葉は厚く多肉で互生し、全縁で表面につやがある。5～6月頃茎の頂に直立する総状花序をつけ白い花を蜜に開く。



ハマボツス【サクラソウ科】
金華山でのハマボツスは金網の内側とか急な岩場とか、鹿の影響の殆どないところで見かけることが多い。



ベニバナヤマシャクヤク【キンポウゲ科】 山地の樹の下に生える多年草。根は肥厚する。全体、シャクヤクより小型。茎の先に淡紅色の花を1個つける。柱頭が大きく、葉の裏に微軟毛がある。



クリンソウ【サクラソウ科】
山間の湿地に生える。金華山では沢筋の水の流れているところやその近くの湿地に見られる。けっこう株数が多く見られるのは鹿の影響があまりないからと思われる。



ミズホオズキ【ゴマノハグサ科】
山野のわき水のほとりに生える多年草。全体軟らかく無毛。茎は枝分かれし、斜上して高さ10～30cm。夏～冬にかけて上部の葉のわきから細長い花柄を出し、黄色の花を開く。



ウツギ【ユキノシタ科】 山地に生える落葉低木。樹皮は次々とはげ、若い枝には小さな星状毛がある。葉は対生、両面に星状毛が生えてざらざらしている。5～6月に円錐花序を出して多くの白い花を咲かせる。

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 夏 4 ～



オオハンゴンソウ【キク科】葉が鹿に食べられ、上部にだけ残っている状態。鹿が嫌って食べない植物の一つと言われているもの・・・。



クマヤナギ【クロウメモドキ科】山地や平地の藪、川沿いの土手などに生える蔓性の落葉低木。夏に枝先、枝腋に円錐花序を出し、緑色を帯びた白い小花を多数つける。核果は翌年紅色となり後に黒熟する。写真の半分より下の部分は鹿の食害。



ヤマボウシ【ミズキ科】山地に生える落葉高木。4枚の白い花弁のように見えるのは総苞片で、中心部に花弁4枚、雄しべ4本、雌しべ1本持つ多数の小花が集まる。秋に集合花は赤熟シ、ヤマグワといい食べられる。



ギンリョウソウ【イチャクソウ科】山地の暗い木陰に生える腐生植物。茎は直立し1株に数本ずつ出る。根を除いた他の部分はすべて純白色。葉はうろこ状で互生。夏、茎頂に包葉に包まれた下向きの花を1個つける。



キリンソウ【ベンケイソウ科】山地の岩の上などに生える多年草。太い根茎から茎を群生し下部は斜めに立ち高さ5～30cm。葉は互生。6月茎の先端に平らな散房状の集散花序に多数の黄色花をつける。



マルミノヤマゴボウ【ヤマゴボウ科】山地に生える多年草。太いゴボウ状の根がある。夏、葉の付け根の反対側から花茎を出し、多くの淡紅色の花を総状につける。果穂は直立し、液果は多汁でほぼ球形。熟すと紫黒色となる。



金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 夏 5 ～



ナガバヤブマオ【イラクサ科】

各地の山あいに生える多年草。高さは1～2mほど。茎は四角柱で緑色。葉は対生。鮮緑色で毛はほとんどなくつやがあり、3本の主脈があり、脈は落ち込む。花序は穂状で腋生し、直立、長さ12cm以上。茎の中部の穂は雄性、先端に近づくと雌性になる。



ヤマホタルブクロ【キキョウ科】

山地に生える多年草。全体にあら毛がある。花は6～7月。花冠は長さ4～5cm。萼裂片は狭3角形で、湾入部に反り返る付属体がない。種子には狭い翼がある。



クマノミズキ【ミズキ科】山地に生える落葉高木。ミズキに似るが、葉が対生する点で異なる。若枝は稜があり赤褐色を帯びる。葉は卵状長楕円形で先が尖り、裏面は白色を帯びる。ミズキより約一ヶ月遅い6～7月、枝先に散房花序をつけ、ミズキに似た白花を開く。果実は球形で黒熟する。



ニガイチゴ【バラ科】

山野の日当りの良い乾燥ぎみの場所に生える落葉低木。地下茎を伸ばして増え、しばしば群生する。よく分枝し、枝には細かな刺がある。花は白色の5弁花で、花弁は細長く縮れている。



サンショウ【ミカン科】葉柄の基部に一對ずつの刺があり、一本ずつのイヌザンショウと区別される。葉は奇数羽状複葉で、明るい腺点と独特の芳香がある。雌雄異株。若葉は食用に、果実は薬用や香辛料となる。



ベニバナヤマシャクヤク【ボタン科】山地の森林に生える多年草。ヤマシャクヤクによく似るが、花弁が淡紅色で、雌しべの柱頭がやや長く曲ることで区別される。根にはアスパラギンを含み、歯痛薬や下痢止めとして用いる。

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 夏 6 ～



エゾウラジロハナヒリノキ【ツツジ科】 日当たりの良い山地に生える落葉低木。よく分枝して枝先に5～15cmの総状花序に淡緑色の壺型の花を下向きに多数つける。有毒植物で昔は葉を粉にしてウジ殺しに用いた。



ウチワゴケ【コケシノブ科】 岩上、樹幹などにつく常緑性のシダ。マット状になることが多い。根茎は細く、長く横走り、暗褐色の毛をやや密につける。葉は単葉で緑色。薄い膜質。葉柄は短く、多くは長さ1cm以下。



チチタケ【ベニタケ科】 夏～秋、広葉樹下に発生。傷つくと白い乳液が多量に分泌され、乾くと褐色のしみになる。食。金華山ではナラタケ、クリタケ、アカモミタケ、ツキヨタケなど様々な種類のきのこが見られる。



コボタンズル【キンボウゲ科】 山野に生える落葉木質の蔓。夏～秋、葉腋に短い円錐状の集散花序を出し、多数の白色の小花がむらがつく。



メハジキ【シソ科】 野原や路ばたに生える二年草。高さ50～100cm。夏～秋にかけ枝先の葉のわきに淡紅紫色の唇形花を数個づつ弾状につける。



コクキサルノコシカケ【マンネンタケ科】 多年生の猿の腰掛。きのこは年々成長を続け、幅50cmを超えることもある。傘は半円形、扁平丸山形～馬蹄形。表面はかたい殻皮でおおわれる。



金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 秋 1 ～



イワヒメワラビ【コバノイシカグマ科】 向陽の平地から山地などに生え、伐採あとなどに侵入する。根茎は匍匐し、毛に覆われる。葉柄は毛があり、葉身は羽状複葉。金華山では大群落をつくり普通に見られ目立つシダ。



ベニバナヤマシャクヤク【ボタン科】 秋、開裂した袋果の赤い内面に着いているルリ色をおびた黒色の成熟種子は遠くからでも目立ち大変美しい。



レモネゴマ【シソ科】 山野の半日陰に生える1年草。茎には短い軟毛がやや密生し、レモン様の香りがある。花は8から10月に咲き淡紅色。一見シソと見間違うほど似ている。金華山では多く見られる。



サンショウ【ミカン科】 金華山ではサンショウは普通に見られる。鹿の食害によって盆栽状になっているものも見られるが、中には2mほどのものも多く、実が見られるものも多い。鋭い刺が鹿から身を守ってきたと思われる。



ママコナ【ゴマノハグサ科】 山地の林のへりなどの乾いた場所に生える、一年生の半寄生植物。葉は対生で全縁。夏、枝の先に白い軟毛が密生した果穂をつくる。



エゾオオバコ【オオバコ科】 海岸の砂地などに生える多年草。葉の表面に毛が密生していて葉が白っぽく見える。オオバコよりも小型。

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 秋 2 ～



ハンゴンソウ【キク科】山地、深山に生える大形の多年草。高さ1～2m、夏～秋にかけて茎の上端で散房状に多数の頭花が密集して開く。頭花は黄色。鹿が食草として好まないため多く見られる。



アキノキリンソウ【キク科】日当りの良い山地に生える多年草。高さ30～60cm。夏～秋にかけて茎先に穂状となって頭花が多数つき、花冠は黄色。



ビロードシダ【ウラボシ科】山中陰地の岩場やまれに樹幹に着生する常緑性のシダ。根茎は長く横走。葉身は線形、肉質で柔らかく、全面に黄褐色から灰褐色の星状毛が密につく。稀な植物の一つ。



センブリ【リンドウ科】日当りの良い草地で、やや日陰の所に生える二年草。葉は対生で柄がない。秋、花冠が五裂し白色で紫色の条線のある小花をつける。古くから薬草として利用されてきた。



シロヨメナ【キク科】山地、丘陵地などの日陰の林縁に生える多年草。横に這う地下茎がありよく小群落をつくる。秋に茎の頂で分枝し、白色黄心の頭花を散房状につける。



キッコウハグマ【キク科】山地のやや乾いた木陰に生える多年草。地下茎は這い、茎は高さ10～30cm。葉は茎の下部に集まってやや輪状につく。頭花は総状または複総状につく。

金華山の四季・花マップ

春・夏・秋編 ～ 秋 3 ～



ベニバナボロギク【キク科】 アフリカ原産の一年草。伐採跡地や路傍等に生える。花序は先が垂れ、下向きに頭花をつけ、花冠は朱赤色をしている。冠毛は白色。



アカハナワラビ【ハナヤスリ科】
日当たりの良い山地林下などに生える冬緑性の小型の被子植物。高さ10～20cmになり、栄養葉は3出複葉で、3回羽状分岐、小羽片の先端は鋭い。冬季に葉が著しく紅葉する。



キンカアザミ【キク科】 名前のように金華山に産するアザミとしてその名がついている。他のアザミの種類と比べ葉の刺が太く、硬く、鋭い。それでも鹿に食べられ花が咲かないでしまうものも多い。



ヨウシュチョウセナサガオ【ナス科】 荒地や路傍などに生える1年草。花は8～9月。花冠はろうと形で淡紫色または白色。茎は枝分かかれ、高さ1m以上になる。全体にアルカロイドを含み有毒。



ガマズミ【スイカズラ科】 日当たりの良い山野に生える高さ2～4mになる落葉低木。枝先に花茎を出し、散房状に白色で柄のある5弁花を多数つける。果実(液果)は卵形で、秋に鮮紅色に熟し、果実は甘酸っぱい。



ヤマハナワラビ【ハナヤスリ科】 向陽の山地に生える冬緑性の多年草。根茎は短く葉を年に1枚出す。孢子葉は栄養葉よりはるかに高い。県内では大変稀なシダ。

金華山の四季・花マップ 春・夏・秋編 ～ 秋 4 ～



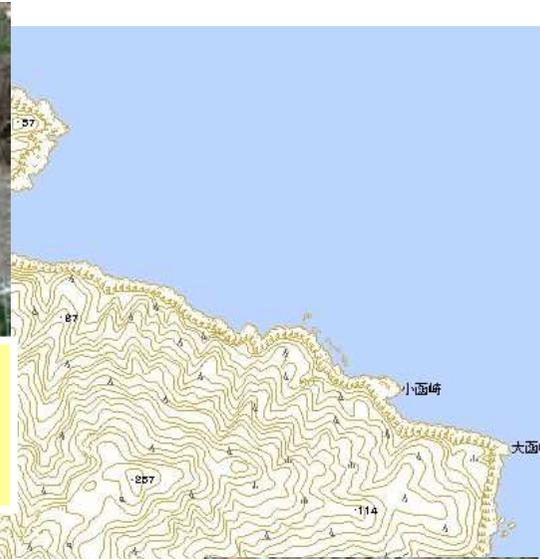
コハマギク【キク科】

関東地方以北から北海道にかけての太平洋岸の崖地や草地に生える多年草。高さ15～30cmほどでハマギクより小さい。秋、ハマギクの花が終りかけた頃より盛りを迎える。



ハマギク【キク科】

茨城県から青森県の太平洋岸の崖地や草地、砂地などに生える多年草。高さ1mほどになる。観賞用として栽培される。



ガマズミ【スイカズラ科】

ガマズミの果実は「そぞのみ」と言ってよく食べ歩きをしたものである。この果実は果実酒にも適している。鮮やかな赤色の果実酒ができる。



ダイヤモンドソウ【ユキノシタ科】 山地の湿気のある岩の上などに生える多年草。夏～秋にかけて高さ10～30cmの花茎を出し、まばらな円すい花序を出して白色の花を開く。花弁は5個、下の2個が大きく大の字に似ているので大文字草の名がある。



マメツタ【ウラボシ科】 林下の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ。根茎は長く這い、多数の葉をまばらにつける。葉には円形～楕円形の栄養葉とへら形で長い胞子葉がある。宮城県が北限のシダ。



ススキ【イネ科】 金華山には葉が狭線形で大きく湾曲し、一見イトススキと思われるようなススキが多く見られる。鹿の食害の影響によってとも考えられるが今後の課題である。